

課題の概要

- 提案構想名 「亜熱帯島嶼科学研究拠点を担う若手研究者育成プログラム」
- 総括責任者名 「岩政 輝男」
- 提案機関名 「琉球大学」

機関の現状

琉球大学では、21世紀COEプログラム「サンゴ礁島嶼生態系の生物多様性の総合解析」、特別教育研究経費（研究推進）「新興・再興感染に対する粘膜ワクチンの開発研究」、特別教育研究経費（拠点形成）「亜熱帯島嶼・サンゴ礁域における生物の多様性の現状、形成過程、維持機構、資源利用に関する共同研究」などを中核として、地域特性を活かした亜熱帯島嶼科学の研究教育拠点形成を目指している。また、日本最南端に位置する研究フィールドを有し「南の総合大学」として、亜熱帯・島嶼社会・海洋に特化した特色ある研究拠点形成を促進するため、学部横断型の研究組織「亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構」を立ち上げ、学内経費によりタスク研究を実施している。このように、亜熱帯島嶼環境に根差した研究拠点が形成されつつある。

若手研究者の育成に関する取り組みでは、学長特別政策経費による「若手研究者支援研究費事業」の実施、大学院博士後期課程に在籍する学生を対象とするリサーチ・アシスタント制度、ポスドクの雇用などがある。

人材養成システム改革・若手研究者育成の構想

亜熱帯島嶼科学研究拠点を形成する上で、従来の学部・学科・講座の枠を超え、学際・複合的な研究を指向する優秀な若手研究者を採用・養成するため、テニユア・トラック制度による人材養成システムの構築を目指す。

「亜熱帯・島嶼社会・海洋」に特化した研究分野において、10名程度のテニユア・トラック制による若手研究者を採用することとし（亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構に所属）、外部評価委員を含めた客観的で透明性の高い採用・評価システムの構築を図る。

若手研究者の自立的な研究環境を整備するため、自主的措置を含めて、共通機器の整備、研究スペースの確保、研究資金の確保、リサーチ・アシスタントの配置等を行なう。

期間終了後も、テニユア・トラック制度を学内財源により維持し、他分野の拠点形成につながる全学的な人事システムへと広げることを目指す。

ミッションステートメントの概要

本プログラムでは、「亜熱帯島嶼科学研究拠点」の形成を担う若手研究者を育成する観点から、テニユア・トラック制度により10名程度の若手研究者を国際公募により採用し、研究資金、サポートスタッフなどの研究環境を整える。

中間時（3年目）には、外部評価委員を加えた運営委員会による中間評価を実施し、それまでの研究活動や将来性などについて中間的な評価を行う。また、特に優れた研究業績を上げた若手研究者については、そのテニユア・トラック審査を繰り上げて実施する。

終了時（5年目）には、テニユア審査において、学術論文以外に今後の展開が望める基礎データの蓄積、具体的な研究ネットワークと活用を盛り込んだ構想を提案させる。テニユア審査において適格者とされた研究者が、テニユア制に移行することができるためのポストを100%措置する。



若手研究者育成プログラム実施体制

学長(総括責任者)

副学長(運営委員会委員長)

亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構

亜熱帯島嶼科学研究拠点
若手研究者育成プログラム
運営委員会

主な任務:

- ① 若手研究者の専門分野とサポート体制の検討
- ② 若手研究者の評価基準の策定
- ③ 若手研究者の公募、選考、採用
- ④ 本プログラムの参加部局の決定
- ⑤ テニユア・ポストへの移行の審査・決定

メンターによる助言

採用・評価

若手研究者
(任期付・テニユア候補者)

・研究費・研究スペース
・RA配置などのサポート



琉球大学テニユア・トラック制度実施内容

1年度目

2年度目

3年度目

4年度目

5年度目

6年度目

若手研究者
任期付採用

中間評価

テニユア審査

調整費による取組

若手研究者
選考

外部評価委員
を加えて選考

- ・スタートアップ資金
- ・研究費の措置
- ・RAの配置 など

中間評価を踏まえて
見直し

- ・競争的研究費の措置
- ・RAの配置 など

若手研究者
国際公募

特任助教又は
特任准教授
10名

共通機器の整備

自主的取組

若手研究者
任期付採用

中間評価

テニユア審査

若手研究者
選考

外部評価委員
を加えて選考

若手研究者
公募

- ・競争的研究費の措置
- ・RAの配置 など

人文社会学研究科
特任助教 1名

ミッションステートメント

- 提案構想名 「亜熱帯島嶼科学研究拠点を担う若手研究者育成プログラム」
- 総括責任者名 「岩政 輝男」
- 提案機関名 「琉球大学」

(1) 人材養成システム改革構想の概要

これまで、各学部・学科等の枠にとらわれがちであった人事システムを改め、「亜熱帯・島嶼社会・海洋」に特化した世界的研究拠点を形成するため、学際・複合的研究を指向する優秀な若手研究者を採用・養成することができる人材養成システムを構築する。

若手研究者を採用・養成するに当たって、外部研究者の評価を加えた、透明で質の高い評価システムを導入した上で、テニユア・トラック制度の導入を図るとともに、テニユア・トラックの若手研究者用の独立した研究環境を整備する。

(2) 各年度における業績評価の実施計画

初年度にテニユア・トラック制度により、10名程度の若手研究者を国際公募により採用し、併せて研究資金、研究スペース、サポートスタッフなどの研究環境を整備する。各年度に、本学「研究推進戦略室」企画員と「亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構」所属教員に關係部局のメンター教員を加えた評価チームにより、研究の進捗状況や基礎データの蓄積についてレビューを行い、組織的に指導・助言を行う。併せて、公開制による研究発表会を開催し、学外の研究者5名程度から書面による論評を作成してもらい、指導に活かしていく。

(3) 3年目における具体的な目標

3年目を終了する時点では、外部研究者を加えた運営委員会による中間評価を実施し、それまでの研究活動や将来性などについて中間的な評価を行う。評価に当たっては、フィールドワークを自立的に行うことの出来る若手研究者の育成という観点から、フィールドワークで得られたデータをベースにした論文あるいは国際会議発表を達成することを目標とする。学術論文のような目に見える業績以外にも、自立的な研究ネットワークの形成、共同研究契約なども成果として考慮する。

その結果を踏まえて、必要なアドバイスを行なうとともに、その後の研究資金、サポートスタッフなどの見直しも行なう。また、特に優れた研究業績を上げた若手研究者については、そのテニユア・トラック審査を繰り上げて実施する。

(4) 実施期間終了時における具体的な目標

本プログラムにより、5年間で10名程度の若手研究者への支援を行い、この期間中に若手研究者が独自に論文発表や競争的研究資金を獲得できるなど、自立した研究者の育成プログラムを構築する。

終了時におけるテニユア審査においては、学術論文以外に今後の展開が望める基礎データの蓄積、具体的な研究ネットワークと活用を盛り込んだ構想を提案させる。

テニユア審査において適格者とされた研究者が、テニユア制に移行することができるためのポストを100%措置する。

(5) 実施期間終了後の取組

実施期間終了後は、間接経費を含む学内経費を財源としつつ、定年退職者ポストをテニユア・ポストとして確保して当該人材養成システムを維持する。

また、一定のインセンティブ方策を設けることにより、テニユア・トラック制度を全学的に浸透させることを目指す。

(6) 期待される波及効果

地方大学の研究活動及び人材養成システムを、地域特性に基づいたオンリーワンとしての独自性と国際的な拠点形成により、改革を図るためのモデルとなり得るものであり、同様の課題をかかえている他大学・研究機関への波及効果が期待できる。